

前立腺癌^{がん}について

その特徴と最近の話題



久米隆 医師

最も多いのは前立腺癌と膀胱癌ですが、今回はそのうちの前立腺癌について、特徴と最近の話題についてお話ししたいと思います。

①高齢になるほど罹患率が高くなる

②PSA(前立腺特異抗原)は優秀な腫瘍マーカー

③前立腺癌とホルモン療法

④治療技術の進歩

⑤日常の注意事項

私が広島大学から梶川病院に赴任して早くも28年目になりました。その間に、世間一般の泌尿器科疾患に対する知識もマスクミヤインターネットを通して次第に広まり、また、検査・治療技術も近年ますます進歩しています。泌尿器科が担当する癌で

最も多いのは前立腺癌と膀胱癌ですが、今回はそのうちの前立腺癌について、特徴と最近の話題についてお話ししたいと思います。

①高齢になるほど罹患率が高くなる

②PSA(前立腺特異抗原)は優秀な腫瘍マーカー

③前立腺癌とホルモン療法

④治療技術の進歩

⑤日常の注意事項

前立腺癌は、40年前には欧米と比べて日本にはほとんどない癌といわれ、その原因調査がされてきたほどです。結果、食事や生活習慣が関連していることが明らかになりました。確かに動物性の蛋白質摂取に偏りすぎないで、各種の野菜、魚介類、海藻類を含めたバランスのとれた食生活が望ましいと思われ

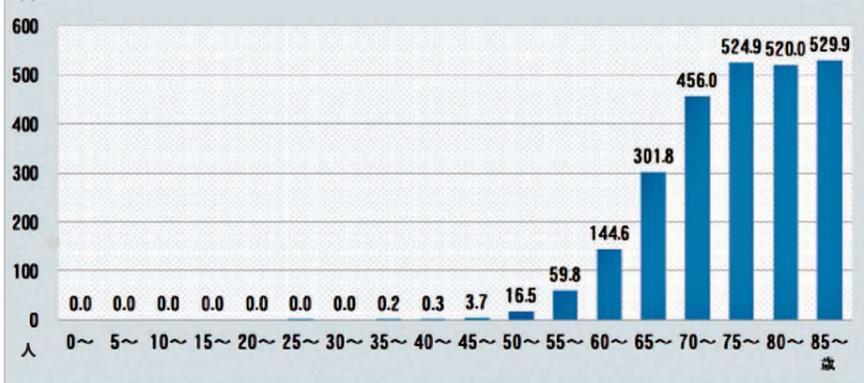
また、多くの前立腺癌は進行が比較的ゆっくりした癌ですが、中には診断されて早いうちに転移が進行する場合もありま

す。癌の悪性度の問題だけでなく、体の免疫性も関係しているように思われます。診断時にすでに遠隔転移が認められる場合、やはり予後は不良で、本人も家族も苦しい思いをするようになってしま

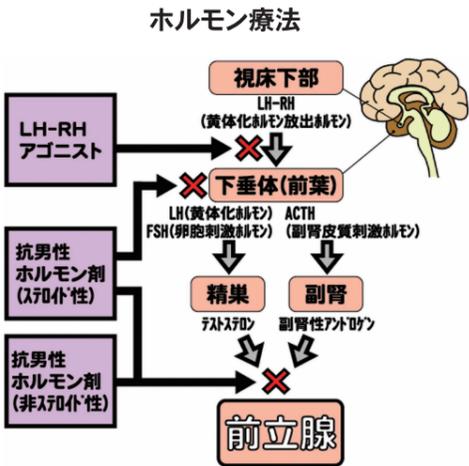
います。従って、早期の診断が肝心となります。50歳代の後半になったら、健康診断にPSA(前立腺特異抗原)測定を加えてみることをおすすめします。

梶川クリニック(広島市西区天満町)院長・日本泌尿器科学会認定専門医・日本泌尿器科学会認定指導医 久米隆

前立腺癌年齢階級別罹患率(平成22年)人口10万人対



出典:国立がん研究センターがん対策情報センター



出典:前立腺がんQ&A (監修:大阪府立成人病センター 西村和郎 先生)

ホルモン療法

視床下部 LH-RH (黄体化ホルモン放出ホルモン) LH-RH アゴニスト

下垂体(前葉) LH(黄体化ホルモン) ACTH (副腎皮質刺激ホルモン) FSH(卵胞刺激ホルモン) (副腎皮質刺激ホルモン)

精巣 副腎 抗男性ホルモン剤(非ステロイド性) 抗男性ホルモン剤(ステロイド性)

前立腺

発熱・出血などが少ない) に行われています。また放射線治療も従来の通常外照射に代わって限局癌に対する内照射(前立腺内に治療用放射線源を埋め込む方法)やIMRT(強度変調放射線治療)、3DCRT(三次元原体照射)など治療部位によりピンポイントに照射できる外照射技術が用いられ、後遺症が格段に少なくなっています。

PSA(前立腺特異抗原)は、血液中のPSA濃度は、前立腺濃度より前立腺癌の診断率は分泌液中と比べが、PSA 4~10 ng/mlで正常の人では(グレーゾーン)で30%前後、10 ng/ml以上(陽性)の場合にはさらに高率(多くの前立腺癌はホルモン療法が有効なため、他の多くの癌と比べて生存期間をより長く期待

PSAが高値の人にPSAが前立腺の直腸診や超音波検査を行い、癌を疑う場合は前立腺の針生検(前立腺の一部を特殊な細い針で採取して、病理学検査という詳しい検査をして、腫瘍があるかを判断する)を必要とする。腫瘍が確認されたら、PSAの経過を追って必要と判断されれば再度針生検を施行する場合がある。

中等度分化型前立腺癌の増殖を一定の期間(低分化型の癌細胞が増えるまでの間抑える)ことができる。

④治療技術の進歩

前立腺癌の治療は、癌がどこまで進行しているか(病期)、癌の組織分化度(悪性度)、患者さんの年齢、体力および治療法の希望をふまえて、ホルモン療法か、手術(前立腺全摘除術)か、放射線治療か、またはその組み合わせを決定していきます。

近年は治療技術の進歩がすすみ、手術方法も腹腔鏡(お腹の中をみる内視鏡)のこと。お腹に小さな穴を開けてそこから器具などを入れて手術を行う)が広く行われ、さらにロボット支援手術も加わって、骨盤内の狭い前立腺領域に、より細かい操作がより低侵襲(手術・検査などに伴う痛み

発熱・出血などが少ない) に行われています。また放射線治療も従来の通常外照射に代わって限局癌に対する内照射(前立腺内に治療用放射線源を埋め込む方法)やIMRT(強度変調放射線治療)、3DCRT(三次元原体照射)など治療部位によりピンポイントに照射できる外照射技術が用いられ、後遺症が格段に少なくなっています。

梶川クリニック(広島市西区天満町)院長・日本泌尿器科学会認定専門医・日本泌尿器科学会認定指導医 久米隆